

安曇野市 農業委員会だより



北アルプスを背にドローンによる水稲直播の様子
(R5.5.13撮影 穂高)

● 主な内容 ●

- ・ドローンによる水稲直播 …………… 表紙
- ・ドローンによる水稲直播 …………… 2
- ・農業振興等功労者表彰 …………… 3・4
- ・がんばる農業者 …………… 5
- ・農地法の下限面積廃止 …………… 6
- ・全国農業新聞案内 …………… 7
- ・私のおすすめ …………… 8
- ・旬の一句・一首 …………… 8
- ・編集後記 …………… 8

発行日／令和5年7月19日(水)

編集と発行／安曇野市農業委員会

安曇野市豊科 6000 番地

tel 0263(71)2497

農業委員会事務局ホームページアドレス

[http://www.city.azumino.nagano.jp/
soshiki/49/](http://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/49/)

申請書、届出書のダウンロードができます。

水稲直播栽培をドローンで効率化



薬剤でコーティングした種もみ



使用したドローン

※あづみ直播機械利用組合による実証展示事業として実施

ドローンによる水稲直播を実施

5月13日(土)安曇野市穂高上原の水田でドローンを活用した水稲直播が実施されました。現在利用している播種機だと10a当たり30分程かかるが、ドローンだと10分程で終了しました。

今回使用した種もみは「リゾケアXL」という新しいコーティング技術の開発によって発芽率も向上され、すでに全国的に使用されており、当組合でも今年度より使用しています。

市農業委員の平川邦夫さんの水田110aに播種をしましたが、作業の時間は実稼働として概ね一時間程で終わり、大幅な効率化が見られ関係者は驚いていました。

また、ドローンによる直種は初めての試みなので、あくまでも実証展示事業として行い、JAあづみと共に今後の推移をみたい考えとのことでした。

導入のきっかけ

今回、初めての試みに取り組んだきっかけは大型機械の自家導入コストを抑えられ

る事と、育苗管理等の手間が省ける事、また市農業委員会として先進地視察等でドローンを使ったさまざまな農業経営をみて、若い後継者が魅力ある農業を求める事、「IT農業」「スマート農業」といった新しい技術を取り入れていく事が参入を高めるきっかけだと痛感したからです。

最後に

今回思い切ってJAあづみの皆様と相談し、協力を得て、これが実行に移せたことが大きい、感謝したい。今回の実証にあたり県改良普及センター、市職員、地元県会議員、またJA組合長、関係農家の皆様まで、見学に来ていただき反響の大きさに驚いています。初めての試みなので秋の収穫まで、管理を徹底し実証展示効果が期待できるよう頑張っていきたいと思います。

安曇野の常念岳をバックにドローンが飛びかう近未来的な田植え風景が見られる事も間近な事でしょう。



直播1カ月後の水田の様子 (R5.6.17 撮影)

地域農業振興等功労者表彰

宮下悦男さん（73歳）

豊科田沢

地域の農地の維持に努め、地域農業の発展に寄与したことが評価されました。



この度は、松塩筑安曇農業委員会協議会において「地域農業振興等功労者」表彰をいただき御礼申し上げます。

私は、昭和四七年に農業大学校を卒業し就農しました。

当時はエノキ栽培と米作農家で中学時代は詰め込み作業や種菌の接種などの手伝いをしていました。手作業が多く大変でしたので農業をするつもりはなかったのですが、母親が病気になるため農家の経営が成り立たなくなりそうになったため長男である私は農業大学校に進学し農業に関する勉強をする決心をしました。

就農後は、自分なりに経営拡大を図り六次産業化の取り組みも始めました。エノキ栽培には施設投資が必要ですが幸い販売が好調であったため投資もでき、順調に経営ができるようになりました。種菌の確保から販売先の選定まで行うなかでエノキ生産の確立ができました。

エノキの生産は平成二十二年頃にやめて水稲に集約することにしました。また、果樹栽培にも挑戦しリンゴ、モモ、ナシをはじめキウイフルーツやブドウ栽培も実践しました。

現在は、主食用水稲・飼料用米を主体に約10畝（作業受託4畝）の水田を集約し育苗箱3000枚を生産し、エノキの施設を利用し秋の作業をしています。また、果樹は直売所に出荷し好評を得ています。

安曇野市豊科田沢地区は、圃場整備が不十分で小さな圃場が多く農家の高齢化や後継者不足が進んでいます。作業の大変なところは機械化するなど将来を見据え担い手の確保をし、地域農業の維持と農村集落の保全をしていきたいと思っています。



果樹栽培も実践する宮下さん



育苗用ハウス

地域農業振興等功労者表彰

池上 富美男さん（66歳）

明科 中川手

地域内で水田耕作の中心的な役割を担い、地域農業の発展に大きく貢献していることが評価されました。



この度は松塩筑安曇農業委員会協議会において、名誉ある表彰を頂き誠にありがとうございます。これを励みとして、今後もさらに地域の農業を守り発展させていくため努力していこうと思います。

Q1 池上さん、授賞おめでとうございます。

A1 ありがとうございます。

Q2 現在の経営内容と規模について教えてください。

A2 私の場合は主に水稻栽培です。犀川右岸の豊科光と明科の光、中川手地区の範囲で、今年度は自作地0.8haと借入れ地37.6ha、作業受託で2.0haの面積を耕作しています。以前はほとんど主食用米でしたが、最近は飼料用米にシフトして現在では飼料用米が35.5haを占めています。

Q3 保有している農業用機械と人員について教えてください。

A3 大型トラクターが2台、8条植え田植機、6条刈りのコンバイン、乾燥機が200石、籾摺り機が2台と、主だったところはそんなところです。人員は私と息子、通年雇用で二人に協力いただいています。

Q4 長年にわたる米価の低迷に加え、昨年から肥料価格の高騰で経営が大変だと思いますが影響はどうでしょうか。また池上さんが農業経営をしていく上で工夫していること、大事だと思うことは何ですか。

A4 現在は社会の動きが不安定で、農業も常にその影響を受けています。そういうことから、私は農業経営においても多くの情報を集め、早めに対策をとっていくことが重要だと思っています。大型農家、事業者との交流を通じて色々と意見交換をしています。私の場合、以前は主食用米を主に作付けしていましたが、この先も米価の低迷が続いていくだろうと考え、飼料用米へ切替えてきました。安定収益確保の面では良かったですね。また、生産経費の削減と言うことでは、肥料効果をあげる肥料設計をして生産性を高めることで結果的には肥料の高騰の影響を受けることはほとんどありません。

Q5 今後の抱負をお聞かせください。

A5 楽ではありませんが私の場合、息子が就農しているので、自分の農業経営の将来についてはあまり心配していません。今後も、農地をお借りしている地権者の皆さんや大型農家の皆さんと協力しながら、今の体制でやっていこうと思います。当然、社会の変化によっては地域の情勢も農業政策も変わるでしょうから、いつも情報収集には気を配って早めに対応し、これからも地域循環型農業で安曇野の優良農地を元気にしていきたいと思っています。



田植えの様子

がんばる農業者

唐澤 秀昭さん (52歳) (堀金烏川)

経営面積等 水稻120a 施設園芸25a

路地花 25a その他 20a



家族経営で花卉栽培を行う唐澤さん



出荷しているスプレーカーネーション

Q 農業を始めるきっかけはどんなことでしたか？

A 両親が農業をされており、その姿を見たり、手伝いをするうちに、自然に継ぐものと考えていました。青果市場に4年勤めた後に就農しました。

Q 現在は何のような品種を栽培していますか？

A 両親が始めた花卉栽培ですが、現在はスプレーカーネーションを主体に中京、関西方面に農協を通して出荷しています。他にもオーニソガラム、トルコギキョウを栽培しています。

Q 今後の目標などがあればお聞かせください？

A 家族の経営を維持しながら市場や需要者に当てにされる栽培者になれるよう努力します。



一緒に栽培を行う唐澤さんの奥さん



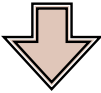
唐澤さんの自宅にある二宮金次郎像



スプレーカーネーション(ハウス栽培)

農地法の下限面積廃止について

農地法第3条により、農地の売買・貸借等の権利を取得するためには、農業委員会の許可が必要となります。許可を得るためには「許可後の権利取得者の耕作面積が下限面積以上になること」が、許可要件の一つとなっており、安曇野市では下記の表のとおり設定してきました。

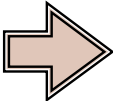


令和5年4月1日からは、「農業経営基盤強化促進法の一部を改正する法律（令和5年法律第56号）」により、農地法の一部が改正され、農地取得時における「下限面積要件」は廃止され、農地を所有されていない方でも取得できるようになりました。

令和5年3月31日までの下限面積

地域	下限面積
豊科	40アール
穂高	40アール
三郷	50アール
堀金	50アール
明科	30アール

令和5年4月1日からの下限面積



下限面積
下限面積を廃止する

ただし、「下限面積要件」は廃止されますが、農地を取得する際に、必要となる他の要件はそのまま残っており、以下の全てを満たすことが条件となりますので、ご注意ください。

- 農地法第3条に基づく許可を受けるためには、次のすべてを満たす必要があります。
- ・今回の申請農地を含め、所有している農地または借りている農地のすべてを効率的にかつ継続的に耕作すること（全部効率利用要件）
 - ・法人の場合は、農地所有適格法人の要件を満たすこと（農地所有適格法人要件）
 - ・申請者または世帯員等が農作業に常時従事すること（農作業常時従事要件）
 - ・今回の申請農地の周辺の農地利用に影響を与えないこと（地域との調和要件）

ご不明な点につきましては、農業委員会事務局まで、お問い合わせください。

全国農業新聞 『全国農業新聞』

購読してみませんか？
経営とくらしを応援します！

全国農業新聞は、農業委員会ネットワークが発行する農業専門紙です。1952(昭和27)年に創刊し、2023年に71周年を迎えました。「週刊」という一週間の時間を生かし、情報がわかりやすいよう解説的にまとめています。また、多くの読者の皆様に満足していただけるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています！

わかりやすく解説
農業・農政

最新情報が満載
経営・流通

まとめて読める
週刊紙

くらしと
地域に活力を

女性の
元気を応援

- ◆発行日 毎週金曜日
- ◆購読料 新聞本紙 月額 700 円 (税込) ※電子新聞も閲覧可能
電子新聞 月額 500 円 (税込) ※電子新聞のみの閲覧

適正な農地管理にご協力ください

農地を適切に管理しないまま放置すると、雑草の繁茂や病害虫の発生、有害鳥獣の侵入・繁殖、ゴミの不法投棄や火災の原因になり、周辺農地はもとより、生活環境に悪影響を及ぼす恐れがあります。

定期的な草刈り等の適正な管理をお願いします。

私のおすすめ

甘酒ゼリー
ブルーベリーソース添え

三郷 中村 洋子さん

材料（二人分）
甘酒ゼリー

- ・甘酒 250ml
- ・粉ゼラチン 5g
- ・水 大さじ3
- ・砂糖 大さじ1
- ブルーベリーソース
- ・ブルーベリー 200g
- ・砂糖 40g
- ・レモン 大さじ1

作り方

- ①粉ゼラチンに水大さじ3を振り入れ、600Wの電子レンジで20秒かけて溶かします。
- ②砂糖を加え、人肌に温めた甘酒に溶かしたゼラチンを加えてよく混ぜ、カップに入れて冷蔵庫で冷やし固めます。
- ③ブルーベリーソースを作ります。材料を耐熱容器に入れ、ふんわりラップをして、4分ほどレンジで加熱します。ラップをはずし、軽くかき混ぜ、更にレンジで2分加熱します。
- ④甘酒ゼリーの上にブルーベリーソースを添えます。



旬の一句・一首

春雨に

草木の吐息

聞こゆけり

豊科 古幡 菊子

藤椅子や

微睡む父の

指定席

穂高 有明 媪

ラベンダー？

いやいやこれは ヤグルマギク

ハーフランナー

笑顔でパシヤリ

三郷 新米農家

悔しくも

深呼吸して寝めことば

ニコツと笑う君に近づくと

堀金 猿田 みさ子

代かきを

おえし田の面の水鏡

さかさ常念岳清しく映る

明科 内川 長弥

編集後記

第7期農業委員及び農地利用最適化推進委員は任を受けてから、この7月で丸2年が経ちました。

農業委員の仕事は主に、

- ①農地の無秩序な開発を監視・抑止する
 - ②担い手への農地集約
 - ③遊休農地の発生防止
 - ④新規参入の促進
- どれも大事な仕事ですが、特に私が意識しているのが「新規参入の促進」になります。

令和3年度の「食料・農業・農村白書」によると基幹的農業従事者は、2020年に136万人となり、5年間で約40万人減少しました。またその割合は、65歳以上が全体の70%を占め、49歳以下の若年層が11%しかないという、他業界からみれば異常とも思える就業者数ピラミッドが構成されているのです。国内で生産される食料を日本全人口の1%の人々で支えているという現実。5年後10年後も、まだまだ元気に先輩方に田畑を耕していただくのが理想ですが、なかなか難しいかと思われまます。

しかし、白書をよく読んでみると、実は、就業者の20～49歳層がこの5年間で2万3000人増加、また女性の新規就業者数は2020年に約1万5000人と前年より1000人増え、毎年少しずつ増えているのです。あと2～3年で日本の就業者は100万人を割り込みます。ほんの少し前、1995年には490万人もいたのにもかわらず。

圧倒的な労働力不足を少しでも解消せねばなりません。農業は日々、研究開発が進み、機械化、IT化により、作業と管理の効率化は劇的に進んでいます。昔と違い女性一人でも農業経営に参入し易い環境になっています。

今後は農業界全般で、青年男女の積極的登用が必要なのではないでしょうか。若手農業者の方々が責任ある大きな役割を担い、地域の将来について考え、発言できる。そんな場を提供することが今後の行政と地域には必要です。

そしてただ登用するだけでなく、責任ある職を任せて初めて意味のあるものになります。将来の日本の農業の舵取りを、将来を担う青年たちに任せ、活躍を期待したい。またそれを全力で応援したい。そんなふうに思っている農業者は少なくない気がします。

【農業委員会だより編集委員会】

編集委員長 笠原 哲雄

委員 岡山さみ子 委員 中村 洋子

委員 田口 博之 委員 丸山 隆也

委員 山田 太一 委員 請地 康仁

委員 藤原 光弘

文責 山田 太一